

大学教育再生加速プログラム(AP) 中間評価結果

整理番号	69	大学等名	東京薬科大学
テーマ	テーマV 卒業時における質保証の取組の強化		

【総括評価】

A：計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

【コメント】

<優れている点>

- ・本取組では、卒業論文研究の評価方法とそれに関連するコンピテンス・コンピテンシーを明確にすることを目的として、3つのポリシーの見直しや教育方法の開発、また、学修成果の可視化とディプロマ・サプリメントの構築が進められている。これらを支える学内体制や外部評価も順次整備されており、多様な改革が全学的に進められていると言え、評価できる。
- ・学長を長として本事業の意思決定を行う「AP 運営委員会」と、その下で各事業の実質的な取組を行っている「AP 実行委員会」を設置し、学内委員会とも連携を取りながらそれぞれに活動を行っている。また、外部評価委員会を設置して、客観的なエビデンスに基づいた PDCA サイクルが機能するように実施体制が整備されていることから評価できる。
- ・各年度の計画に基づき、学内の関係する委員会と連携を取りながら事業が遂行されており、今後の見通しも期待でき、評価できる。また、本補助期間内において統計分析を行う職員の育成・配置が計画されており、補助期間終了後の継続性が見込まれることも評価できる。

<改善を要する点>

- ・本事業で実施する卒業生調査については、歴史の長い大学であるため卒業生も多く、大規模な調査となることから豊富な知見が得られると想像されるが、それを公表する場としてポスターセッションやホームページ、Facebook だけでは発信力が弱いのではないか。薬学・生命科学分野で先駆的な取組を行っているので、同領域の団体や教育関係の学会等を活用して積極的に発表することも検討する必要がある。
- ・選定時に付された留意事項への対応については、記述が簡潔過ぎるように感じられるため、具体的な対応策を説明する必要がある。